

## 第7回文化振興推進委員会会議録

日時 平成23年7月21日(木)午後3:00~5:00

場所 八王子市役所 本庁舎5階 501会議室

出席者 委員 9名

事務局 市民活動推進部 峯尾部長

学園都市文化課 青木次長 南部主査 田中主事

### 1. 開会の挨拶

学園都市文化課・青木次長から挨拶。

無事今年度オリンパスホール八王子が開館。指定管理者の選定や開館記念の公演など、皆様にもご尽力いただいた。

震災後、各文化団体に向けて文化庁長官からメッセージが届き、そこにもありますがこのような時だからこそ光を与える文化が必要だと思う。

震災の影響で、開館記念の公演の延期やガスパール・カサド国際チェロ・コンクールの平成24年度開催延期などがあった。今後は、市の基本計画とともに文化条例策定なども必要と考えている。

委員の皆様には、今後も市の文化振興について貴重なご意見ご提言を賜りますよう、お願い申しあげ

る。  
本日の出席者は9名、欠席者は3名。委員の過半数の出席により今回の委員会の成立を報告。本委員会は、原則公開。傍聴人なし。以後の議事進行を会長にお願いする。

### これより進行は会長

会長 事務局から配布資料の確認。

#### 事務局

(事前送付資料の確認)

(資料1)平成22年度「文化振興計画」取組状況のまとめ

(資料2)平成22年度重点項目取組状況のまとめ

(資料3)文化振興推進専門部会名簿

(参考)平成22年度取組状況

(机上配付資料の確認)

(資料1)平成22年度「文化振興計画」取組状況のまとめの差し替え

(資料2)平成22年度重点項目取組状況のまとめの差し替え P4

(参考)平成22年度取組状況の差し替え P 1、 1

2010年7月20日 文化振興施策に関する提案メモ(文化振興推進委員会委員)

### 2. 平成22年度取組状況について

#### 事務局

差し替えた(資料1)平成22年度「文化振興計画」取組状況のまとめに基づき説明

平成22年度の目標に対し、その達成状況を文化振興推進専門部会が評価した。

結果は、A（目標を達成できた）・B（ある程度目標を達成もしくは維持できた）が 96%、C（あまり目標を達成もしくは維持できなかった）・D（目標を大きく下回った）が 3%と多くが達成されている。

会長

何か意見質問等ありますか。

全委員

特に無し。

会長

事務局案を了承する。

### 3. 平成 22 年度重点項目の取組状況について

事務局

差し替えた(資料1)平成 22 年度「文化振興計画」取組状況のまとめ及び(資料2)平成 22 年度重点項目取組状況のまとめに基づき説明。

資料 1 の 2 . 重点項目の状況の 5 件のうち、4 件は A（目標を達成できた）もしくは B（ある程度目標を達成もしくは維持できた）だったが、文化振興条例だけ D（目標を大きく下回った）だった

資料 2 の平成 22 年度の目標に対する取り組み内容では、各担当課の自己評価と文化振興推進専門部会の評価を一つの欄で表現していたが、市としての評価が見えにくいとの指摘を受け、文化振興推進専門部会の欄を作り、市の評価をはっきりさせた。文化振興推進委員からの評価の欄もその隣に設けて見えやすくしている。その隣には文化振興推進委員の意見の欄を設け、各所管に今年度の取組みに生かしてもらう。

会長

前回私が提案した、市の評価が全体で吟味されたものなのか分かりにくいという意見が、反映した形になった。

これで、文化振興推進専門部会の評価を基に文化振興推進委員会の評価を行う。

各担当課の評価から文化振興推進専門部会の評価が悪くなったものはない。その経緯を教えてください。

事務局

16 実際の取組み「教育研究機関相互の連携の推進」（インターンシップ連絡協議会の実施）について、文化振興推進専門部会で所管評価が B（ある程度目標を達成もしくは維持できた）だったものを A（目標を達成できた）にした。

昨年に比べて、派遣実績が 100 人以上多くなり、目標は達成していると判断した。

会長

5 実際の取組み「学校施設の活用」（学校施設の開放のあり方についての検討）の評価について説明してください。

事務局

平成 22 年度の目標は、「各関係部署と調整し学校施設の開放のあり方について検討する」とある。この取組みは、小中学校の開放のあり方が最大の問題となっている。平成 22 年度の実績は、目標としていた関係所管との検討を、「あり方検討委員会」を開催し、検討することができている。そのため、C（あまり目標を達成もしくは維持できなかった）を A（目標を達成できた）と評価した。

会長

それでは、すべての重点項目の評価を考える。

委員

文化振興推進専門部会の評価が A（目標を達成できた）のものは、あまり問題ないと考え、B（ある程度目標を達成もしくは維持できた）以下のものを確認するのはどうか。

会長

その方法でよろしいか。

全委員

異議なし。

会長

では、13 実際の取組み「国際理解教育プログラムの支援」の評価はいかがか。

委員

平成 21 年度と平成 22 年度を比べると数字がかなり減っている。理由は書いているが、そもそも達成できてないのではないかと考える。そのため、C（あまり目標を達成もしくは維持できなかった）評価だと考える。国際理解教育というのは英語教育ではない。英語教育を国際理解教育とすり替えている。国際理解教育をいうものが必要なことを理解することが必要。教育委員会との連携を取ってほしい。

会長

これは少なくとも維持できていないということで、C（あまり目標を達成もしくは維持できなかった）にする。また、教育委員会との連携という意見が出た。

事務局

文化振興推進専門部会でも、議論になった。数字だけではなく、その中身を評価すべきということになり、B（ある程度目標を達成もしくは維持できた）の評価になった。

委員

文化振興推進専門部会の意見もわかるが、市内に多くの小中学校（市立 108 校）がある中で、この数は少なすぎる。

会長

では、文化振興推進委員会の評価は C（あまり目標を達成もしくは維持できなかった）評価とする。

委員

やはり国際理解ということをよく知ってもらう必要があるだろう。国際理解教育イコール英語ということではないという理解が必要。

事務局

国際理解教育というのは、一方では日本人のアイデンティティにもつながってくることだと思う。

会長

市民の中にもそういう教育ができる人材が埋もれていると思う。

事務局

国際協会では、かなりノウハウがある。

会長

差し替えになった資料 2 重点項目一覧の 9 実際の取組み「市内検討組織の設置」（市民の文化活動に対する助成制度等の検討）は、D（目標を大きく下回った）評価だが事務局で補足説明あるか。

#### 事務局

記載したとおり、財政状況が厳しい中で、方向性が見出せず、D（目標を大きく下回った）評価とした。

#### 委員

これからも財政状況が厳しい中、この取り組み自体、継続していくべきなのか。このままでは何の意味もない。

#### 事務局

まず、助成のあり方として、そもそも金銭的なものというやり方と、環境を整えるという面ではオリンパスホール八王子の設置などを行った。また、支援としては市民文化祭など様々な事業を支援していく中で、新たに取り組むことができなかった。

#### 会長

やれないとわかっているのなら取組から外していいのではないか。

#### 委員

まず、庁内組織の検討をする項目である。

#### 委員

そもそもゴールが見えていないから、国などの助成の申請もしてないのではないか。お金がないからできないなどがあるが、予算がなくてもやれることはある。オリンパスホール八王子や市民文化祭など今までやっていることもあるが、とりあえず何を目標としているのか。何も見えない。

#### 事務局

実行部隊である八王子市学園都市文化ふれあい財団へ市民文化育成のための補助金を支出している。そのあたりをもっと細やかに配分すべきだろうと思う。若きチェリスト育成基金も設置しており、また、オリンパスホール八王子のネーミングライツの命名権料を基金にできないかなどの検討はした。

#### 委員

どのような方法も俎上にも上らなかったということと、検討したが成果には至らなかったということでは、だいぶ違う。

#### 事務局

具体的に事業展開する中で、様々な外郭団体などの補助申請などもしている。また文化振興基金のようなものができるかといった検討もしたため、まったく検討しなかったわけではない。

#### 事務局

次回より説明を書き加えていく。

#### 委員

今まで行っているような当たり前のこともあると思うので、そのことに加えて何をやっているのか。チャレンジ精神が分かるものがほしい。

#### 事務局

八王子市学園都市文化ふれあい財団は公益法人改革がこれからある。そこでまた、市民文化に役立つ取り組みができるのではないかと思うので、そのようなチャレンジをしていきたい。

#### 会長

助成というどうしてもお金になるが、直接お金でなくても情報提供や環境を整えるなど、広く支援制度と捉えた方がいいのではないか。

#### 委員

たとえばこの取り組みは、ガスパール・カサド国際チェロ・コンクールが中心になっていると思うが、市民でもないカサド氏を取り上げたガスパール・カサド国際チェロ・コンクールは、市民に浸透していないし、だから盛り上がっていない。そのような状況の中で、どう支援していくのか。

**事務局**

基金の設定についてということよろしいか。

**委員**

はい。

**事務局**

若きチェリスト育成基金は、税制優遇ができるようにし、多くの方が寄附をしやすいようにするためにこのような形になった。

**委員**

この取り組みが良い方向に進んでいかないのは、市民が知らないからではないか。もっと多くの市民を取り込むことで、いい取り組みになるのではないか。

**事務局**

まさに課題である。お金だけではない支援を考えていきたい。

**会長**

では、D(目標を大きく下回った)評価とする。

**事務局**

差し替えの重点項目取組状況のまとめの 1 実際の取組み「市民・企業メセナ意識調査の実施」(市民の文化活動に対する助成制度等の検討)の 22 年度取組み「ネーミングライツ」について少し説明する。

**事務局**

八王子市はもとより、都下 26 市でも初となるネーミングライツ・スポンサーを昨年度獲得することができた。

オリンパスホール八王子という愛称で 10 年間、年間 2500 万円のネーミングライツ・スポンサーの契約をすることができた。

このお金を八王子の文化振興に使っていく。特に若い世代に生かせるようにしていきたい。

**委員**

このご時世に素晴らしい。オリンパスにも市当局にも拍手。これを継続していくための文書はどのようなものか。

**事務局**

協定書を取り交わしている。

**委員**

せっかく獲得したその金額をどのように使っていくのか。

**事務局**

内容はオリンパスホール八王子となった新市民会館で行われる事業展開に役立てる。今年でいえば、開館記念事業における市民団体の会場費や西本智実氏をプロデューサーに迎えての文化振興事業の財源としている。

**委員**

せっかく市に入るお金の使い道を、ばら撒きではないかと言われたいないようにしてほしい。

#### 事務局

児童に質の高い音楽を提供し、学生のユースオーケストラを作るなど、大まかな 10 年の計画がある。当面 3 年間は西本智実氏のプロジェクトに力を入れていく。市民に身近なところでクラシック音楽に親しむ機会を提供するとともに、八王子から全国に向けオリジナリティあふれる作品を発信したい。

#### 委員

ホールは主催事業により全国赤字がほとんど。しかし工夫して黒字のところもあるので、ぜひオリンパスホール八王子はそうようになってほしい。穴埋めに使われたのではないかと思われぬようにしてほしい。

#### 事務局

市民文化の振興に資する「ソフト事業」にお金はあてていき、ホールの維持管理費には直接あてない考え。たとえば西本氏のクラシックコンサートチケットは、通常高い値段なので安い値段設定にし、市民が求めやすいようにした。

#### 委員

他の国では、クラシックなどに国などが支援することで、市民の人たちが気軽に楽しめるようになっている。このような取り組みが必要。

#### 会長

3 実際の取組み「八王子の文化の海外への紹介」(国際交流推進特使の任命や特使ホームページの充実)について意見はないか。

国際交流推進特使の方の活動はどのようなものか。

#### 事務局

留学生の方が、八王子で様々なイベントに参加し、HP を作り、PR 活動を行っている。

#### 事務局

海外友好交流都市の出身の留学生や学園都市推進会議の弁論大会の入賞者が、特使になっている。

#### 委員

みなさんこの取組みを知らない。広報などで市民に知らせるといいのではないか。いいアイデアだと思うがもったいない。

#### 委員

特使の数は、八王子市の構想としては現在多いのか、少ないのか。

またこれ以外のことは構想にないのか。

#### 事務局

この特使は、八王子市の奨学金の優先枠と関係してくるため、留学生 3100 人に対して、枠は現状のままが妥当だと考える。しかし、工夫が足りないかとは思う。

#### 事務局

所管へ意見を伝え、PR もしていく。

#### 会長

海外からの留学生だけということだが、八王子市から海外へ留学している人を派遣特使としてもいいと思う。

#### 委員

海外友好交流都市以外にも留学生には東南アジアの人などもいるのだから、もっと出身母国を広げるなどの取組みもいいと思う。

実績の欄にそのような内容を表記すべきである。

会長

では、最後に 2 実際の取組み「条例の制定についての検討」(文化振興条例の制定)について。確か、これから行われるゆめおりプランの改定などの要素により止まっている。

事務局

取り組むべきことだと思っている。策定途中の平成 24 年度ゆめおりプランの方針を踏まえ、条例化していきたいと思っている。

事務局

難しいのが、実効性が乏しいものとなり、理念条例になってしまうこと。他市の条例を調べても、やはり懸念したとおりになっている。実効性のあるものにしたい。

会長

期待している。

では、文化振興推進委員会として評価をすべて確認しました。文化振興推進専門部会の評価のままで、一つだけ B(ある程度目標を達成もしくは維持できた)を C(あまり目標を達成もしくは維持できなかった)にした。

#### 4. 平成 23 年度重点項目の選定について

事務局

今年度の重点項目について、資料 2 から 5 実際の取組み「学校施設の活用」、4 実際の取組み「商店会との連携による施設の活用」、1 実際の取組み「市民・企業メセナ意識調査の実施」、3 実際の取組み「八王子の文化の海外への紹介」の項目が外れる。評価が C(あまり目標を達成もしくは維持できなかった)、D(目標を大きく下回った)だったということで重点項目に挙がっていたものが A(目標を達成できた)、B(ある程度目標を達成もしくは維持できた)になったため、重点項目から外れる。

会長

では、委員から継続を希望するものなど意見はあるか。

委員

外れるものを再度確認したい。

事務局

5 実際の取組み「学校施設の活用」、4 実際の取組み「商店会との連携による施設の活用」、1 実際の取組み「市民・企業メセナ意識調査の実施」、3 実際の取組み「八王子の文化の海外への紹介」。以上です。

会長

では、この通りでよろしいか。

全委員

了承。

会長

最後に、私からの提案ですが、市で取り組んでいる内容が市民に伝わっていない。重点項目だけに絞ってもいいのだが、今こういうことをやっている知らせる必要がある。市の HP などに今回の資料を使って市民に知らせる努力をしてはどうか。先ほどのネーミングライツの取組みなどは、市民に周知するように。

#### 事務局

周知については、なかなか足りず、これだけの事業をやっていることを市民がどれだけ知っているかというのが。市のHPを使って知らせていきたい。

#### 委員

オリンパスホール八王子になったのはわかるが、市民に何のメリットがあるのかわからないと思う。広報はちおうじに、事業がどれだけ掲載されているのか。

#### 事務局

文化という目線で周知をしてないことも考えられ、紙面の限りもあり周知が難しい。ネーミングライツは、HPで具体的にどういう事業に使われているかという記載はない。

#### 委員

ホールの性能や西本氏のことも含め、せっかく地の利が良いホールなのだから重点PRも必要ではないか。

#### 委員

八王子市学園都市文化ふれあい財団が、オリンパスホール八王子の指定管理者になっていないということも関係してくるのか。

#### 会長

しかし、指定管理者も市の事業に協力するということになっている。

#### 委員

八王子市学園都市文化ふれあい財団が、次回指定管理者を取ることができるか。またそれまでの期間どのようにパイプをつないでいくかが問題だろう。

#### 事務局

八王子市学園都市文化ふれあい財団も努力が必要。これから利用者に評価されることだろう。

#### 5.その他

#### 事務局

文化振興推進専門部会の部会員の入れ替えについて報告

- ・資料3に基づき説明。部会員選択の基準は、2つ。各分野の政策担当課 又は、取組項目が5つ以上ある課である。今回業務の担当替えにより、都市計画室の取り組みがなくなったため、交通政策室が政策担当であることから、部会員の入れ替えをした。

前回の推進文化振興推進委員会で会長よりご提案いただいた件について

- ・本日配付した資料。提案1.はもうすでに文化振興推進計画が策定され、実行中のため、今回は見送らせていただいた。提案2.は現在計画で出来上がっているものなので、次回の改定の際に反映させたい。提案3.市の評価が明確ではないという指摘をいただき、文化振興推進専門部会の評価を付けくわえた。

#### 会長

他になければこれで閉会とする。ありがとうございました。